

月次景況調査結果

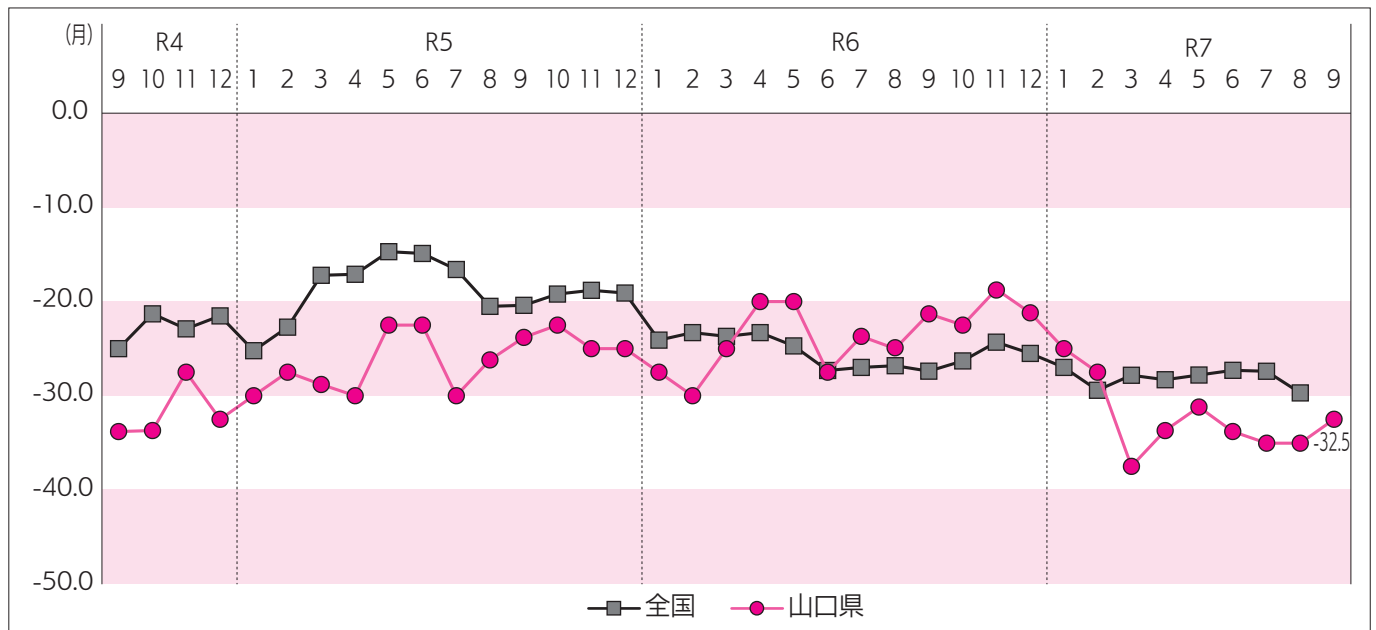
令和7年9月期

製造業において、原材料費や人件費上昇分の価格転嫁を不十分ながら進め、売上高や収益が増加した業種がある一方で、非製造業においては、物価高や猛暑の影響により客足が鈍化し売上げが減少した業種が多く、9月期全体の景況DI値は依然として低い水準にある。

深刻な人手不足や、収益確保に苦慮する中で、10月から最低賃金が大幅に引き上げられたことに対し、業種を問わず、経営に対する影響の大きさを懸念する報告が多く寄せられている。

業界の景況DI値の推移 — 全国平均との比較 —

※DI値(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標です。
DI値(前年同月比) = 増加・好転組合割合 - 悪化組合割合



項目別のDI値

項目	前年同月比			前月比
	R 7.8月	R 7.9月		
売 上 高	▲20.0	▲22.5		↘
在 庫 数 量	▲4.0	▲16.0		↘
販 売 価 格	18.8	27.5		↗
取 引 条 件	▲15.0	▲15.0		→
収 益 状 況	▲28.8	▲26.3		↗
資 金 繰 り	▲12.5	▲12.5		→
設備操業度	▲25.0	▲18.7		↗
雇 用 人 員	▲11.2	▲11.3		↘
業界の景況	▲35.0	▲32.5		↗

DI値

30以上…………… ☀ -30以上-10未満 ☁
10以上30未満…… ☁ -50以上-30未満 ☁
-10以上10未満… ☁ -50未満…………… ☁

業種別 業界の景況DI値

	業 種	前年同月比		前月比
製 造 業	食 料 品	▲50.0	☁	↗
	織 維 工 業	0.0	☁	→
	木 材・木 製 品	▲50.0	☁	→
	印 刷	▲50.0	☁	→
	窯 業・土 石 製 品	▲50.0	☁	→
	一 般 機 器	▲37.5	☁	→
	輸 送 機 器	▲33.3	☁	→
非 製 造 業	卸 売 業	▲20.0	☁	↗
	小 売 業	▲28.6	☁	→
	商 店 街	▲50.0	☁	→
	サ ー ビ ス 業	▲9.1	☁	→
	建 設 業	▲36.4	☁	↘
	運 輸 業	▲14.3	☁	↗
	そ の 他	▲100.0	☁	→

月次景況調査結果特記事項【令和7年9月期】
山口県中小企業団体中央会

大分類	具体的業種	地域	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	パン・菓子製造業	宇部・山陽小野田	最低賃金の上昇を受けて、パート退職者の欠員補充を家族が補う組合員がある。街の菓子店では店主への負担が大きい。
	水産食料品製造業	下関	円安が少しずつ回復傾向にあるが、原材料や水道光熱費の高騰、人件費（時給の最低賃金）の上がり幅が大きいため、商品の値上げが追い付かず、単価設定を見直す必要がある。9月は連休もあり、少しずつではあるが売上が増加の模様。これから気温も下がり、過ごしやすくなれば売上にもいい影響が出ると思われるが、最低賃金の64円上昇で人件費がかなり厳しくなり、商品価格にも影響がでると思われる。
	精穀・製粉業	防府・山口	9月の売上については、全国的に慢性的な米不足が続く、農協の概算金大幅に上昇したことによる売上高の増加が見込める状況となった。ただ、高温障害による米の品質低下が明らかになり、等級比率の下落に伴う精米歩留まりの低下により、新米の収穫が続いても、全国的な米の市場での不足感が解消されることがない事態となっている。このまま異常気象が続けば、再度、米不足が発生する事態となり、そもそも、備蓄量が日本の年間消費量の2ヶ月分程度しかない現状を解消するためには、食料安全保障という観点から、4ヶ月分くらいの在庫がほしい。ロシアがウクライナに侵攻して3年を経過したが、戦局について、まったく変更されるような状況ではない。イスラエルがイランを攻撃し、アメリカも参戦するなど、中東情勢の悪化に伴う世界情勢が混沌として、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。原油価格の上昇に伴って、肥料価格が前年比160%アップという驚異的な結果となっている。特に、ガソリン価格の対策費の継続と食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要となってくる。おって、北朝鮮、中国などの情勢を注視しながら、迅速に対応することが必要となる。日本の発電における化石燃料の割合は、約70%と世界的にみても異常に高いので、早急に自然エネルギーの利用と原子力などによる発電に関するカーボンの比率を70%にさせるなどの改善が必要である。トランプ大統領が、相互関税については、日本に対しては、15%という水準が決定したが、さらなる関税措置を示唆するなど保護主義に対する懸念が強まっている。
	食料品製造業	下関	9月は不安定な天候が続き、急な雷雨や残暑の影響で思うように野菜が入荷しないこともあった。また、天候の加減で稲刈りができず、入荷が遅れたうち米の仕入れ値は、昨年の1.4倍となった。直接的な影響を受けるのは年明けとなりそうだが、賃金のベースアップも念頭に入れながら、商品の再度の値上げに踏み切るかどうかを見極めたい。
繊維工業	外衣・シャツ製造業	防府・山口	状況に特に変化はない。
	帆布製品製造業	宇部・山陽小野田	暑熱対策工事が増加。売上も安定してきて、10月以降も引き合いはある。新設工事（テント倉庫）が増加している。
木材・木製	製材業・木製品製造業	下関	組合員7社の平均値は、売上額前年同月比20%減であった。
印刷	印刷業	防府・山口	9月も受注、売上とも昨年よりかなり落ち込んだ。公官庁の仕事も減少し、工場も静かだった。10月からの値上げラッシュがどう響いてくるか想像もつかない。
		下関	印刷業界は、最も閑散期となる夏場を過ぎ繁忙期となるが、高騰が続く原材料、エネルギー価格に応じた価格転嫁は依然として思うように進んでいないのが現状である。各企業にとって収益の確保は最も重要な課題であり、そのために事業割合の転換やウエイト配分を変えるなど、各企業がそれぞれ独自性を打ち出すなど大きな転換期を迎えている。
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	県内全域	セメント・重油等原材料や賃金の上昇、人材確保の理由により4月から15%程度の値上げを実施した結果、9月に設計価格が上昇となった。ひとまず安堵しているが、設定期間が5ヶ月から2ヶ月程度まで短縮されないと安定的な経営が難しいと感じている。
		防府・山口	4月に値上げを実施したが、調査会の価格が上がらず発注者（官公庁）へ反映されていないため、公共工事の製品単価は値上げ前の金額となっている。
	生コンクリート製造業	県内全域	出荷量は、前月比76%、前年同月比96%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。
	陶磁器・同関連製品製造業	萩・長門	9月は、シルバーウィーク等もあり、例年であれば売上の増加する月となっているが、今年は祝日の並びも悪く、残暑も厳しいため旅行者が減少した。西日本で一番大きな催事「西日本陶磁器フェスタ」が9/19～9/24まで開催され、売上は108%と増加となった。10月からは更に原材料費が上がり、金・銀を使用した器の値上げを実施する予定。10月からの最低賃金上昇や、原材料費の高騰にこれからが踏ん張りどころである。

一般機器	一般産業用機械・装置製造業	周南	9月は周南コンビナート地域で秋季の定期補修工事が行われている。組合企業の多くは関連の注文により繁忙の様様で、例年通りの状況である。
		防府・山口	受注数減、受注単価低下、利益率低下で非常に厳しい状況である。全国的な公共事業の遅れの影響でお客様からの発注も予定より遅れ気味。機械設備（溶接ロボット）導入で「設備操業度」は上昇、人員確保についても知人の紹介等で増員している。外国人技能実習生の更なる採用を来年1月から決定している。雇用は不安定で入社してもなかなか続かない状況である。
		宇部・山陽小野田	先の見えないロシアのウクライナ侵攻、中近東の政情不安、アメリカのトランプ政権が進める関税政策は世界経済を混乱に陥れ、日本経済への影響が今後どの程度あるか今なお不透明な点があり慎重に見極める必要がある。現状、経済不況につながるほどの混乱は無く、インバウンド需要が旺盛なサービス業含め、介護、外食、サービス業は人材の確保に苦慮しており、外国人材への切り替え需要が多い。但し、今後は入管法の見直しを含め、共生社会づくりが喫急の課題である。早急な対応がないと、他国に比しての低賃金のみならず、反外国人キャンペーンにつながり、優秀な外国人材確保の大きな足かせとなる。なお、最低賃金見直しは一定の成果があったが、山口県の場合、近隣他県に比しての賃金格差は広がる傾向にあり、この解消にも早急に対処する必要がある。今後、安定的人材確保を目指して、従来から交流のあるベトナムのビンズン省に加え、インドネシア中部ジャワ州送り出し機関との連携を進め、賃金対応のみならず多文化共生社会づくりへの対応による生活環境、文化環境、教育環境、日本語教育等の充実による魅力づくりに取り組む必要がある。
		宇部・山陽小野田	好転する要因が見当たらず、現状を維持することで精一杯である。10月からの最低賃金の上昇がどのくらい影響を及ぼすのか不安もある。
		周南	当企業団地は今年で40周年を迎えるが、建物などの老朽化が目立ってきている。
		下関	問題は特にない。
輸送機器	鉄道車両・同部品製造業	周南	鉄道車両関係の全体の受注量は減少傾向にあり、年間では大幅な受注減の見通し。2025年11月下旬から台湾新幹線の受注で増加の予定だが、10月からの最低賃金の急激な上昇による人件費や原材料費・電気料等の高騰および借入金の金利上昇もあり、収益面でも厳しい状況が続く見通しである。半導体製造装置の部品製造業において、当初の予測より受注量が減少。今後もしばらくは低位に推移するものと思われる。
卸売業	乾物卸売業	防府・山口	令和7年度4月以降順調な入出庫により、安定した倉庫運営が実施できている。ここ2年半程、月々の売上も大きな変動がない。現時点では本年度売上げ目標に対し、達成可能な水準で推移している。
	生鮮・魚介卸売業	下関	サンマが数年ぶりの豊漁で、スーパー等からの引き合いが多い。台風の影響なども少なく、相場自体は安定していた。
	各種商品卸売業	防府・山口	物価の高騰により、それに見合う収益の上昇にならない。原材料等、様々なものの値上がりにより、売上も伸び悩む状況が継続している。その打開策を模索しているが、よい方法が見出せない。
	各種商品卸売業	防府・山口	飲料関係商品の売上が増加している。
	各種商品卸売業	下関	度重なる価格上昇と人手不足により、自社で運営していた給食業務を業者へ委託した取引先（病院、施設等）が数件あり、それに伴いこれまでの納品が急にストップする事態となり、顧客数が減少し、収益減になるケースが発生している。
小売業	化粧品小売業	下関	県内の化粧品専門店の売上状況は前年と同等。朝晩がだんだんと涼しくなってきたが、秋バテによる肌荒れなどのケアを提供し、夏の暑さによる肌ダメージに対してもアプローチしていかないといけない。2026年1月から某大手化粧品メーカーもデジタル戦略を始めることを発表し、化粧品大手4社すべてがEC事業に参入することになった。このデジタル戦略は店頭活動をサポートするもので、専門店にとっては良い方向だが、今後他のメーカーの動向も気になるところである。
	各種商品小売業	萩・長門	9月の売上は対前年比10.3%の減少。人手不足により昨年7月から月1日の全館休館日を設けており、営業日数は昨年と同じ。全体的に不振であったが、特にレストランが15～20%減と大不調であった。売上客数は8.3%減少。
		下関	9月の供給状況は前年比89.0%、来店者数は前年比94.2%。商品の値上がりが続いているが、その割に供給が伸びていない。米と野菜の入荷が少なく、価格が高いためか、供給高、来店者数共に減少している。

商店街	岩国市	岩国・柳井	9月は猛暑が収まるどころか悪化して、人々や経済の動きが滞った。気象は異状な状態だが、流通小売業界はサプライチェーンも含めて急激な流通対応が出来ないので、仕入れ調整や生産調整などでその場を凌ぐにすぎない。これほどの影響を受けるなら、抜本的な流通構造を変化させ、ロスのない商売のロジックに改革するほか対応策はないであろう。加えて災害に至るような線状降水帯やゲリラ豪雨等に対する安全策や安全マージンをコスト評価すると、とても現状の買値では対応できない。急速な買値転化は消費者には受け入れられず、企業努力や粗利削減に耐えられる大手流通業者だけが生き残る構図になっている。
	周南市	周南	銀座通りで13日にJC主催のイベント等が開催され、来客数の増加に繋がっている。閉店する店舗も多い中、2店舗の開店があり活気に繋がっていきたい。10月は、蚤の市や周南港まつり地酒横丁などが開催予定。銀座通りを歩行者天国にして約40種類の利き酒を楽しんでいただくイベントで、多くの来客に期待している。
	山口市	防府・山口	野菜の入荷が減少し価格も上昇しているため、冷凍野菜に需要が流れており、売上が減少している。物価の上昇率が大きく、買い控えも起きていると思われる。
	宇部市	宇部・山陽小野田	物価高騰の影響と思われるが売上は伸びず厳しい状況。宇部市役所新庁舎に「市民交流棟」がオープンし、商店街でのイベントが実施されなくなり、人通りもめっきり減少した。
	萩市	萩・長門	9月前半は残暑により来店者数は伸び悩んだが、後半は気温も下がり、来店者が増加した。売上高については、食品関係は堅調だが、買い回り品については依然低調の模様。高価格帯商品の販売は厳しいように感じる。
	下関市	下関	10月1日に商店街プレミアム商品券を発売予定だが、そのための買い控えが起きている。商品券の問い合わせは多く、10月以降に買物客が増加すると期待される。
サービス業	美容業	周南	人手不足が深刻化している中、10月からの最低賃金の上昇により、従業員を抱えている組合員は厳しい環境にある。若い人材がこの業界に入ってくるには、業界全体のレベルアップを図る必要がある。
	理容業	防府・山口	ほとんどが固定客のため、あまり変化を感じない。
	自動車整備業	県内全域	山口県の令和7年8月の新車新規登録台数は、登録車2,210台で対前年同月比86.2%とマイナス、軽自動車も1,856台で対前年同月比85.9%のマイナスとなり、全体で86.1%のマイナスと3ヶ月連続して前年を下回り、減少率もさらに大きくなりかなり厳しい状況が続いている。報道等によれば、車体への価格転嫁、新モデル発売を控えた買い控えではないかとの趣旨の記事が散見されるところだが、9月は上期決算の時期となるため結果を注視したいところ。10月から下期に入るがこの状況が続くかどうか予断を許さない状況にある。また、10月から輸入車のOBD検査が開始されるが、国産車については検査開始から1年が経過したが、大きなトラブル等もなく順調な滑り出しとなった。輸入車について同様に順調な滑り出しとなるか注目されるところである。
	スポーツ・健康教授業	岩国・柳井	9月の入会数は対前年同月とほぼ同数に落ち着いたが、これまでの伸び悩みと、10月からの会費変更の影響で会員数は低調。ただし覚悟していたほどの退会数はなく、10月からは会費引き上げの影響で売上は増加の見込み。スポーツジム部門は今夏は過去最高の会員数を更新し、11月末決算までこのままの数字を維持したいと考えている。
	普通洗濯業	県内全域	例年9月は衣替えが始まる時期であるが、今年は残暑が厳しく持ち込みも減少し、前年同月比で厳しい事業者もあった。10月からの最低賃金の大幅な上昇、物価高による節約志向とクリーニング離れ、資材高騰などと相まって、人件費率の高い当業界では倒産する事業者が増加するとの声も多く聞かれる。
	飲食業	防府・山口	年末の予約が入り始めている。平日は若干人手が少なく感じるが、週末は賑わっている。
	旅館業	防府・山口	売上、宿泊人数とも前年同月比90%と大きく割り込む結果となった。昨年の映画撮影に代わる大きなイベントや大会がなかったためと推測される。
		萩・長門	天候の不順が継続。客足は鈍化して利用客は前年並みとなった。原油高が変わらず、諸物価の高騰により経費は未払金が増加している。
		下関	大阪・関西万博の開催や猛暑等が影響しているためか、観光客の出足が鈍かった。9月後半は宿泊者数も若干増加した。清掃等の人員が不足している。

建設業	電気工事業	防府・山口	中電への工事申請143件（当支部133件）、前年同月213件（同135件）。太陽光発電への申請9件（前年23件）、オール電化申請129件（前年32件）。LED街路灯への切り替え・新設申請11件（前年15件）であった。
	左官工事業	岩国・柳井	工事量が減少している。技能者数も大幅減であるが、現場で左官技能を発揮する場面が激減している。左官技能士を目指す若者も減少している。
	管工事業	周南	仕事量は安定している模様。依然として人手不足が深刻で、水道業者同士で協力して進めている状況。
	屋根工事業	岩国・柳井	建築資材等高騰の影響で、新築着工件数の減少が著しく、仕事の確保に苦戦している。ようやく暑さも和らいできたのに、仕事確保に追われる毎日である。
	鉄骨・鉄筋工事業	県内全域	組合員によって仕事量に差が生じており「仕事量が減少傾向。製作中断した物件の再開が見込めず、他社依頼工事や小口工事を細かく集めて工場稼働率を確保している。」や「工場の設備投資や公共工事で現状忙しい。残業する必要はほぼ無いが順調な稼働状況が続いている。」との声がある。運搬費の値上がりや工場稼働率が回復しても利益率が回復しない等、価格が厳しいとの意見が多い。先行きの不透明感が強く、鋼材市況と来春以降の物件の状況を注視している。
	一般土木工事業	岩国・柳井	猛暑が続く、土木建築の現場では、熱中症対策により休憩時間を適宜適切に確保しつつ、進行管理に努めている。柳井土木管内では、夏季の入札を意識的に減少させているのか、発注件数が例年よりも減少している。予算的には、昨年度とほぼ同額の予算と聞いている。当組合では熱中症対策により、例年の環境美化活動は9月30日に、また技術研修会は10月14日に実施を予定している。組合事務所が国道に面していることから、周囲の花壇の管理に努めているが、猛暑の影響で水遣りに苦労している。
		萩・長門	9月の受注高は対前年同月69.7%、今年度の累計は対前年比85.1%
運輸業	一般貨物自動車運送業	周南	運送業界はとにかく厳しい状況が続いている。一日も早く、この状況が好転することを願うばかりである。
		宇部・山陽小野田	倉庫保管案件は変わらず増加している。反面、荷物輸送量は減少傾向にあり、新規顧客獲得に注力する必要がある。人員不足の状況は続いており、採用しても長く続かない傾向がある。
	一般乗用旅客自動車運送業	周南	タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比+1.1%（令和7年8月1日～令和7年9月20日分 今期24,117千円 前期23,844千円）だった。8月1日～8月31日分は、+4.4%（今期 15,012千円 前期 14,373千円）。9月1日～9月20日分は、▲3.9%（今期 9,105千円 前期 9,471千円）。前年の8月分が特に悪かったのでその反動による一時的な回復と思われる。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。8月分については、周南+9.1%、下松+9.4%、光▲1.4%、防府市地区が+0.2%で、組合員の全域では+6.5%、地区外（員外）▲11.7%、合計+4.4%（+639千円）だった。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）こともあって、慢性的に危機的に不足している。乗務員の人件費が歩合給であって、勤務する乗務員個人の収入は悪くないのだが、総額収入金額が増加しないのに、会社の運営経費は増加し続けているため、タクシー事業者の多くが赤字経営となっているようで、過去に積み上げた資産を取り崩しながら、ようやく運営しているといった状況。乗務員・後継者がいない事や今後回復の見込みが立たない事から、老舗のタクシー事業者が廃業を決定している。タクシー車両は燃料として、オートガスというプロパンガスを使うものが多いが、使用量の減少から、ガス会社の充填所（給油所相当）の営業時間短縮、日曜祭日休業や充填所の廃業の動きがある。タクシー会社も、ガソリン車（ハイブリッド）に代替える傾向もあり、ますますLPガスの消費量が減少している。乗務員不足だけでなく、燃料充填待ち渋滞待機時間の増加や残燃料低下による乗務切上げによる営業効率の悪化も、稼働タクシーがいないために利用客に迷惑をかけている状況の原因となっている。
	港湾運送業	宇部・山陽小野田	9月の取扱高も、先月に続き対前年比でほぼ同程度であった。
その他	介護事業	防府・山口	価格転嫁できない介護業界では、深刻な人手不足や、物価上昇による原材料費・エネルギー価格の高騰により収益が悪化している事業所が多い。10月より最低賃金が大幅に引き上げられるため、このままでは耐えられない状況にあるが、自民党新総裁となり、「介護報酬の見直しが前向きに検討されることを願う」という声が上がっている。